

令和5年度

聖坂学園 事業所・施設事業報告

オリブ工房  
オリーブ・フードファクトリー  
ナザレ工房（パン工房ナザレ）  
シーダひのき工房  
シーダ日野学園  
オリーブの家  
ナザレンホーム  
眞砂ホーム  
相談事業所ひじりざか  
横浜市神之木地域ケアプラザ

理事会・評議員会

社会福祉法人聖坂学園

## 1. 施設運営について

今年度も、各事業についてほぼ事業計画に基づいて実施いたしました。

5月に新型コロナウイルスの感染法上の位置付けが2類相当から5類へ引き下げられ、社会的な規制がなくなったことを受け、日帰り旅行やバザーなどの施設行事を再開しました。基本的な感染防止対策を継続しておりますが、各事業所で新型コロナウイルス感染者が出た時には、法人本部と連携して対応しました。シーダ日野学園（入所）やグループホームでは、感染者の療養と濃厚接触者の生活支援を行う事になり、必要な防護策を行って支援を継続しました。

今年度も法人全体で収支の改善について取り組み、毎月経営会議を開催し各事業所の課題を洗い出し数値目標を掲げて、増収に向けて取り組みました。事業所の利用率向上に向けて、障害福祉サービス事業所の生活介護事業と共同生活援助事業（グループホーム）では、契約書・重要事項説明書の見直しを行いました。契約内容について確認し、年度毎に契約する事に変更しました。10月には事業所内の環境と収支改善の為に、ナザレ工房の定員を60名から40名に削減しました。グループホーム入居者の9名を法人内事業所に異動した事により、各事業所の欠員の改善に繋がりました。認定調査に事業所職員が立ち会い、適正な障害支援区分の取得に努めました。重度障害者支援加算対象利用者の支援が出来るように、強度行動障害支援者養成研修（基礎・実践研修）をオンラインにより受講し、研修修了者の増員に努めました。

障害福祉分野では、日帰り旅行が再開し、感染防止対策としてグループを分けて複数の日程で実施しました。大型バスで出かけたり利用者の希望により行き先を決める等、事業所毎に工夫して実施しました。地域交流では町内の盆踊りに希望者が参加したり、地域のイベントに外部販売で出展したりしました。入所施設では、感染防止に重点を置いた対応は怠ることなく通常の活動を再開しています。行事も新たなスタイルで実施し、地域交流も含めアフターコロナを具現化しました。地域イベントでの販売やレクリエーションイベントに参加しました。短期入所事業については、今年度に入り、新規の利用者やコロナ禍に利用を控えておられた方の再契約等で利用希望が増えています。相談事業所では、サービス等利用計画案を作成や定期的なモニタリングを実施しました。港南区自立支援協議会の相談部会に出席し、ネットワークの構築、地域との情報共有に努めました。

地域ケアプラザでは、通所介護事業で登録可能人数（18名）に届かない対策として、レクリエーションや機能訓練や日ごろの運動等を楽しく実施できるようにするためカラオケ装置の導入を行いました。また、ケアマネジャーの事務所に出向き営業活動を継続して実施しています。地域の高齢者の増加に伴い介護認定を受ける方が増加しています。要支援者の担当件数を増やせるよう、介護予防プランナーの採用を行ってきましたが、ようやく来年度2名の職員採用が決定しました。横浜市から資金援助を受けて、食堂の一部を分室事務所として改装を行い、職員一人あたりの事務エリアを拡張する事ができました。

## 2. 職員の状況について

職員については、異動職員9名、新採用・中途採用職員は20名でした。また、勤務中の怪我や体調不良等で長期欠勤者が出ました。

宿泊を伴う職員の確保が難しく、シーダ日野学園では支援員の欠員が続いています。不足は日勤シフト職員を採用することにより徐々に回復していますが、夜勤者への負担は微減していますが、引き続き採用に取り組んでいます。

グループホームでは、職員の体調不良で欠勤が続いたり、退職した職員の確保ができるまで、地域支援担当やバックアップ施設の職員が世話人として勤務のローテーションに入りました。

通所の事業所では、年度途中で職員の退職者が出ましたが、職員の確保を行うまで厳しい状況が続きました。ナザレ工房の定員減に伴い、オリブ工房に1名異動しました。職員の採用については、人材紹介業者や成功報酬型の求人サイトからの採用がほとんどですが、知人による紹介や紹介料を伴わない応募に対して就職祝い金の支給を始めました。

対面での研修開催が多くなりましたが、オンラインも併用するハイブリッド研修もあり、状況に応じて参加の方法を検討しました。強度行動障害支援者養成研修等の加算の取得に必要な研修は、オンラインでの参加がメインになっています。

### 職員の入職・退職・法人内異動報告（パート職員も含む）

事業所 施設 (職員数)	本部	オリブ 工房	オリブ・ フードファ クトリー	ナザ レ工房 (パン工房)	シーダ ひのき 工房	シーダ 日野学園	オリブ の家	ナザレ ン ホーム	真砂 ホーム	相談事業 所ひじり ざか	神之木 地域 ケアプラザ
<b>入職合計</b>	<b>0</b>	<b>6</b>	<b>0</b>	<b>2</b>	<b>2</b>	<b>7</b>	<b>5</b>	<b>5</b>	<b>2</b>	<b>0</b>	<b>12</b>
(正職)	0	3	0	0	2	4	4	1	0	0	4
(パート)	0	0	0	0	0	0	1	4	1	0	7
異動	0	3	0	2	0	3	0	0	1	0	1
<b>退職合計</b>	<b>1</b>	<b>6</b>	<b>0</b>	<b>4</b>	<b>5</b>	<b>7</b>	<b>5</b>	<b>4</b>	<b>2</b>	<b>1</b>	<b>10</b>
(正職)	1	3	0	1	2	3	4	0	0	0	4
(パート)	0	2	0	2	3	1	1	3	1	1	5
異動	0	0	0	1	0	3	0	1	1	0	1

法人全体 年度内中途採用も含む

入職 41名（異動10名含む） 昨年度30名

内訳： 正職 18名 パート 13名

退職 45名（異動7名含む） 昨年度42名

内訳： 正職 18名 パート 19名

### 3. 障害各事業所・施設活動報告について

#### (1) 利用者の入所・退所 人数報告

事業所 施設	オリブ 工房	オリブ・ フード ファクトリー	ナザレ 工房 (パン工房含 む)	シーダ ひのき 工房	シーダ 日野学園	オリブの家 (第1・第2・ 第2)	ナザレン ホーム (第1・第2)	眞砂 ホーム (第1・第2)
定員 (名)	60	20	前期 60 後期 40	60	生活 50 入所 50	26	15	20
年度始 契約利用 (名)	57	21	54	55	生活 49 入所 49	26	15	19
入所 (名)	7 (内中途5名)	1	0	5 (内中途4名)	1 (内中途1名)	1 (内中途1名)	0	1 (内中途1名)
退所 (名)	4 (内中途4名)	0	11 (内中途9名)	1	0	1 (内中途1名)	0	0
年度末 契約利用 (名)	58	21	43	58	生活 50 入所 50	26	15	20

#### (2) 利用者支援について

新規利用者は法人全体で16名となり、その内新卒は4名で、法人内異動は10名でした。退所利用者は17名で、その内10名は法人内での異動でした。

5月に新型コロナウイルスの感染法上の位置付けが2類から5類へ引き下げられた事もあり、日帰り旅行やバザー等の行事が再開されました。地域でのイベントへも可能な限り参加するようにしました。施設外での活動も増やして社会的な活動に力を入れました。また、健康支援としてウォーキングやダンス等の運動プログラムにも取り組みました。

パンやクッキーの製造販売を行っている事業所では、閉鎖しておりましたイトインコーナーを再開させました。いつも地域の方々の憩いの場として、楽しみに利用して下さる方々が増えています。販路も順調に広がり、市内の市立東高校の文化祭にフードファクトリーのパンとクッキーを始めて用いて頂きました。

入所やグループホーム等の生活施設では、新型コロナウイルスの感染者が出た時には、感染者の療養期間が終わるまで出来る限りの感染防止対策を行い、在宅生活を支えました。入所では、作業活動では段階的に活動場所を拡充し、通常活動に戻すことが出来ました。施設全体に活気が戻り、改めて日中活動の大切さを実感することができました。グループホームでは、ガイドヘルパーを利用して余暇を楽しんでいる方もおられますが、事業所やヘルパーの確保が課題となっています。

相談事業所ひじりざかでは、ご家族の高齢化や逝去に伴う、ライフステージの変化に対する相談、居宅支援の導入や、グループホーム等の利用に向けての取り組みが散見され、支援のウエイトが増加しています。

### (3) 各事業の実施件数報告

①生活介護事業年間実施日数 総支援日数 249日 (昨年度250日)

事業所・施設	オリブ工房	オリーブ・フードファクトリー	ナザレ工房 (パン工房含)	シーダひのき工房
延べ利用数	12,396名	4,688名	10,866名	12,506名
平均実利用者	49.8名 (50.6)	18.8名 (17.5)	43.6名 (48.5)	50.2名 (49.8)
定員に対して利用率(%)	83.0% (84.3%)	94.1% (87.3%)	88.9% (80.9%)	84.0% (82.8%)

②短期入所事業の利用人数及び利用日数

事業所・施設	シーダひのき工房	シーダ日野学園
延べ利用人数 (昨年度)	0件 (1件)	684件 (447件)

③日中一時事業 (通所施設のための事業)

事業所・施設	オリブ工房	ナザレ工房 (パン工房含)	シーダひのき工房
延べ利用件数	7件 (32件)	22件 (39件)	2件 (5件)

④送迎サービス (通所施設のための事業)

事業所	オリブ工房	オリーブ・フードファクトリー	ナザレ工房 (パン工房含)	シーダひのき工房
延べ利用人数	9,582件 (8,122件)	340件 (364件)	3,366件 (4,047件)	12,871件 (11,556件)

## 4. 神之木地域ケアプラザ事業活動について

### (1) 包括支援センター、地域交流、生活支援 (公益事業)

#### ①総合相談支援

地域からは毎年2,000件を超える相談をいただいています。相談の中には、本人ニーズと関係者との思いが合わないことがあり、長期にわたっての支援が必要なケースや対応が難しい相談もあります。

#### ②権利擁護業務

虐待案件 5件、成年後見案件 16件

#### ③包括的・継続的ケアマネジメント支援業務

民児協、地区社協、地域密着型通所介護・グループホームの推進会議に参加

しました。勉強会や各講座を実施したり、研修会や事例検討会を通して連携構築を行いました。ケアマネジャーへの支援を行っています。主任ケアマネジャーの採用は厳しい状況にあり、書類を横浜市に提出する事で1年間は経過期間とすることが可能であることを確認しました。個別地域ケア会議を3回実施しました。認知症の方の地域との関わりについて、地域の支援者、専門職等多職種の参加者で検討を行いました。

#### ④介護予防に係るケアマネジメント

今年度はコロナも比較的落ち着いた事から、特に単発講座の参加者が増え、毎回数名の新規の方が参加しました。ただ連続講座の参加者は減少傾向にあります。

#### ⑤地域活動交流

自主事業として、「絵本の読み聞かせ」等の子育て支援事業や専門機関と共催事業を行い世代間交流事業に取り組みました。地域支援として、民生委員、地域の障がい者施設、障害に関する機関との情報交換を行い、地域の障がい者グループホーム・働く施設の見学会を行いました。

#### ⑥生活支援体制整備

半年間、職員不足で厳しい状況でしたが、定期的にスマホ講座を実施し、居宅介護保険事業所の受け入れが厳しい方へ、制度と民間の両方を取り入れたサービスB(見守り)活動団体に声掛けし10名近い利用者の受入れを実施できました。

### (2) 介護保険事業

#### ①居宅介護支援事業（ケアプラン作成、居宅サービス提供、事業者連絡調整）

本年度から認定調査も必須となり介護度の変更利用者が多かったです。9月からケアマネ3人体制となり、週に1回朝ミーティングを実施し情報交換・共有を行っていました。

#### ②介護予防支援事業（ケアプラン作成、事業者連絡調整）

自社と外部委託で毎月330件程度のプラン作成・請求業務を行いました。「予防プランナー定期会合」を毎月開催し、困難事例の報告・検討を行うことで、適切なケアマネジメントが実施できるようにしました。

#### ③通所介護事業（予防通所）

令和5年2月に通所介護から地域密着型通所介護に変更したが、なかなか登録可能人数（18名）に届きません。対策として、施設外から見える箇所に張り紙をしたり、ケアマネジャーの事務所に出向き営業活動を継続して実施しています。

満足度向上については昨年度導入した専門ソフトを活用し個別機能訓練を看護師により実施し、徐々に筋力の維持向上を目指しています。また、カラオケや口腔体操・脳トレなどを行いました。

## 5. 事故報告・ヒヤリハット・苦情、要望解決

事業所 施設	オリーブ 工房	オリーブ・ フードファクトリー	ナザレ 工房	シーダ ひのき工房	シーダ 日野学園	神之木 地域ケアプラザ
事故報告	19	8	5	14	209	1
ヒヤリハット	5	5	7	4	59	4
虐待	1	0	0	0	0	0
苦情・要望	0	0	1	0	0	0

事業所	オリーブの家	ナザレンホーム	眞砂ホーム
事故報告	7	5	8
ヒヤリハット	6	0	3
虐待	1	0	0
苦情・要望	0	1	0

### ①事故報告・ヒヤリハットの主な事由

一時所在不明、他害（物損、打撲）、食事のトラブル、非常ベル、返却ミス、転倒（打撲、裂傷）、導尿忘れ、投薬ミス、通院の失念、公用車接触事故

### ②苦情要望の主な事由

職員の対応について

### ③虐待の事例

利用者の固執行動、利用者への不適切な対応